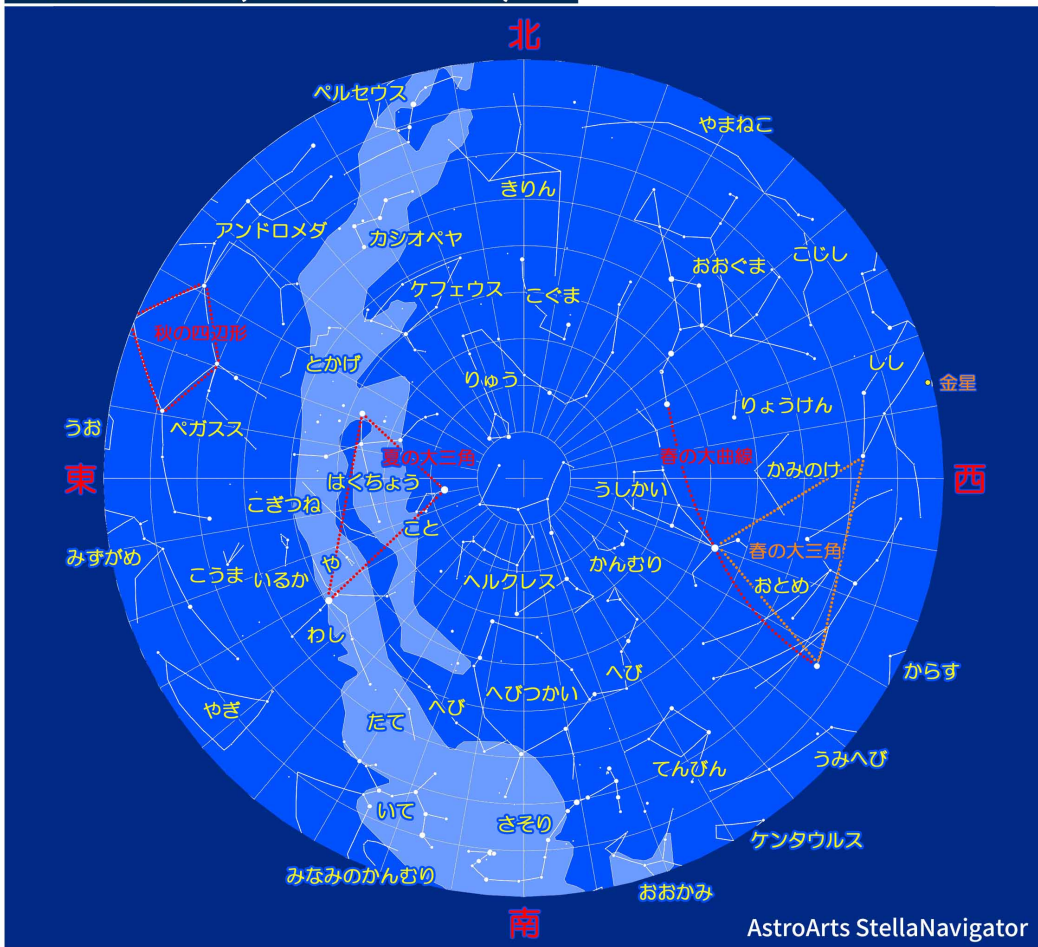




銀河の森天文台 2026年7月みどころ天体情報

7月の星空(15日 21:00頃)



M8(散光星雲)



いて座の方角、南斗六星のひしゃくの持ち手付近に位置しています。星間塵の濃い部分が星雲の光をさえぎる姿が、ひび割れた干潟を思わせることから、干潟星雲と呼ばれています。この星雲の内部では、さかんに新しい星が形成されています。

写真のような赤い色を見ることはできませんが、15cm大型双眼鏡で、淡く光る星雲と散開星団NGC6530が楽しめます。干潟のように見えるかどうか、じっくり観察してみましょう。

距離：約3900光年

月

	出	没
8日 ● 下弦	22:53	12:14
14日 ● 新月	02:57	19:19
21日 ● 上弦	11:44	22:12
29日 ● 満月	18:50	03:18

天文台から月を見ることができるのは1～3日および18～31日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。 距離：約38万km

M57(惑星状星雲)

こと座に位置する惑星状星雲で、リング状星雲やドーナツ星雲などの愛称の通り、環の形に見える星雲です。

これは、恒星が一生を終えようとするときに放出したガスが光っているものです。

距離：約2600光年

M11(散開星団)

たて座の天の川が濃くなっている部分（スモール・スター・クラウド）の中に位置する密集度の高い散開星団です。

望遠鏡では、視野いっぱいに星が散らばっている様子を観察することができます。

距離：約5610光年

その他おすすめ

- 金星
- M10 (球状星団)
- M13 (球状星団)
- M22 (球状星団)
- NGC6811 (散開星団)
- NGC6826 (惑星状星雲)
- かんむり座T星 (再帰新星)
- アルピレオ (重星)
- ダブルダブルスター (重星)

イベント・天文現象

7月

- 4(土) 第15回スターライトフェスティバル 深夜12時まで延長開館
- 7(火) 小暑、月と土星が並ぶ (深夜～翌明け方)
- 8(水)～19(日) 夏の大三角と天体観望会
- 11(土) 細い月とプレアデス星団が大接近 (未明～明け方)
- 12(日) 細い月と火星が並ぶ (未明～明け方)
- 13(月) 水星が内合
- 17(金) 道みんの日、細い月と金星が接近 (夕方～宵)
- 23(木) 大暑
- 29(水) 木星が合

8月

- 2(日) 水星が西方最大離角
- 5(水)～16(日) ペルセウス座流星群と夏の天体観望会
- 7(金) 立秋
- 13(木) ペルセウス座流星群が極大(AM11時 最大40個/時)
- 15(土) 金星が東方最大離角
- 16(日) 細い月と金星が接近 (夕方～宵)
- 19(水) 伝統的七夕 (旧七夕)
- 20(木) 月面X
- 23(日) 処暑
- 28(金) 水星が外合

開館情報

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

開館時間

14:00～22:30
(4月～9月)

13:00～21:30
(10月～3月)

休館日